



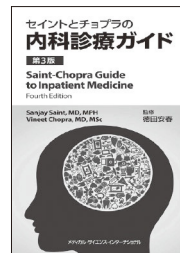
[評者]  
松本 謙太郎

## セイントとチョプラの 内科診療ガイド 第3版

Saint-Chopra Guide to Inpatient  
Medicine, 4th edition

徳田 安春 監修

●A5変 頁708 2020年9月  
定価: 5,720円 (本体5200円+税10%)  
[ISBN978-4-8157-0300-4] MEDSi刊



英文の医学雑誌で必ず読む2つの症例検討の記事があります。それは『The New England Journal of Medicine (NEJM)』の Clinical Problem-Solving (CPS) と『Journal of Hospital Medicine』の Clinical Care Conundrums (CCC) で、ともに臨床経過が段階的に提示され、臨床推論が挟まれながら、そのプロセスが吟味されています。普段のカンファレンスの息遣いが見えてくるようなこのシリーズによく登場する2人の大リーガー医によって書かれた、Tierney 先生のお弟子さん達の UCSF の香り漂うディスカッションを垣間見える一冊が、徳田安春先生監修のもと、非常にわかりやすい栗原健先生達の訳で昨秋上梓されました。『セイントとチョプラの内科診療ガイド』第3版 (MEDSi刊) です。

みなさんは昔、“megafepsda”を覚えた記憶はないでしょうか？ 英語で目的語として準動詞を伴う時動名詞のみを用いる、mind, enjoy, give up, avoid, finish, escape, put off, stop, deny, admit の最初の文字を集めて、思い出しやすくする頭文字です。このような頭文字法による暗記術は文字通り覚えていものの頭文字を続けて覚えるもので、覚えることや思い出さなくてはいけないことが多い臨床推論におきましても、この記憶法、英語で言うところの mnemonics (ネモニクス) は非常に役に立ちます。この本では、そのような多くのネモニクスが紹介されています。この本と同様、徳田安春先生著の『鑑別診断ネモニクス』(MEDSi刊) といった素晴らしい鑑別診断の覚え方のネモニクス本も出ております。

毎秋行われる新潟でのケースカンファレ

ンスの中で Saint 先生は、この本からいくつものネモニクスを取り上げられ、明るく、大変楽しく、そして勉強になるカンファレンスを繰り広げられておられました。この本の中の数多くのネモニクスと clinical pearl である KEY POINT はまさにケースカンファレンスや PBL/TBL/チュートリアルでのファシリテーションを助け、特に初学者の鑑別診断を考え始めるリファレンスにうってつけの本となっております。

今回の第3版の『セイントとチョプラの内科診療ガイド』(MEDSi刊)のタイトルは“inpatient medicine”とありますが、終末期ケア、high value care を紹介する医療関連合併症の予防、周術期管理などに詳しく、そしてわかりやすく頁が割かれており、日本語に訳された中で間違いなく次世代の hospital medicine の本です。

しかし、素晴らしいネモニクスはまさに使われてナンボです。“The Saint-Chopra Guide to Inpatient Medicine(4 ed.)”の原著(英語版)はホームページで直接読むことができますので、もしカンファレンスにお忘れの際は参考にされるのもいいかもしれません。

最後に、『セイントとフランシスの総合外来診療ガイド』(MEDSi刊)の清水郁夫先生達の訳も大好きです。Saint 先生は精力的に多くの著作を発表されており、初期研修を始められる学生さんにははすごくお勧めの『Clinical Clerkship in Inpatient Medicine』や指導医の先生方も是非読んで頂きたい『Teaching Inpatient Medicine』などの日本語にも訳されてる本がございます。